

# 令和5年度第1回西播磨圏域自立支援協議会市町部会 議事録要旨

日時：令和5年8月10日(木)10:00～11:30

場所：龍野庁舎別館3階 第5会議室

## 1. 開会挨拶

## 2. 議事・報告事項

(1) 令和4年度西播磨圏域自立支援協議会事業報告について

【事務局より報告】

(2) 各市町第7期障害福祉計画の作成について

【各市町より進捗状況の報告】

【上郡町より質問】

- ・太子町から、計画期間の延長（3年から6年）の話があったが、他市町はいかがか。
- ・上郡町は6年でいきたいと考えている（現在検討中）

### ○相生市

- ・当初3年で予定していたが、庁内協議等を経て6年で進める方向に。
- ・協議会にはこれから諮る予定。

### ○たつの市

- ・3年で策定。

### ○赤穂市

- ・報酬改定に合せ、3年で策定。
- ・報酬改定が今後変更になれば対応する。

### ○宍粟市

- ・6年で策定。協議会にて諮問済み。

### ○佐用町

- ・3年で策定。

【佐用町より質問】

- ・計画策定にかかる外部委託の状況は。
- ・佐用町は、アンケートのみ委託、計画作成は職員で行なう。

### ○相生市

- ・アンケート、計画素案を委託。
- ・庁内のヒアリングは職員で実施。

### ○たつの市

- ・アンケートの素案は市で作成。実施・集計は委託。
- ・計画素案の提案も委託。

### ○赤穂市

- ・全面的に委託だが、市の意見も随時反映する体制。

### ○宍粟市

- ・アンケートの素案は市で作成。実施・集計は委託。
- ・計画素案の提案も委託。

### ○太子町

- ・アンケート、計画素案の作成を委託。

### ○上郡町

- ・アンケート、計画素案の作成を委託。

### 【赤穂市より質問】

- ・実施計画内の見込量はどんな根拠で算定しているのか。
- ・すでに達成済みの目標は掲載するのか。その場合、どのような書きぶりで記載するのか。

### ○相生市

- ・見込量は、実績をもとに算定。
- ・人口が減ってもサービス量が増加している点が悩ましい
- ・達成済みの目標は、記載する必要があるのかどうかを検討したい

### ○たつの市

- ・見込量は、実績やアンケート結果を参考にしている
- ・達成済みの目標は、大々的に乗せない方向で作成
- ・乗せる場合は「今後も継続する」という書きぶり

### ○宍粟市

- ・計画が6カ年に変更したため、見込量の算定が困難点。今後協議予定。
- ・達成済みの目標は、周知の観点から掲載する方向。

### ○太子町

- ・見込量は、実績やアンケート結果を参考にしている

- ・達成済みの目標は「継続していく」や「無くならないように維持する」等で掲載。

#### ○上郡町

- ・見込量は、実績をもとに算定。
- ・達成済みの目標は「維持・充実していく」等で掲載。

#### ○佐用町

- ・見込量は、実績をもとに算定。
- ・達成済みの目標も町民等にとって必要な情報であるため記載予定。

#### 【濱本コーディネーターより意見】

- ・基幹センター未設置市町が減少。(西播磨圏域では上郡町、佐用町で未設置)
- ・基幹センターに関して、予算・人材の問題が大きい。  
⇒運営面では委託・直営、職員面では専任・兼任等、各市町において状況は様々  
⇒業務の線引きが曖昧で相談対応が加重、専門性に不安を感じる等、問題も多数あり
- ・基幹センターの役割の明確化については、県だけではなく、圏域でも検討中
- ・児のサービス利用（特に放デイ）が急増している。児はサービス終了の見極めが分からないケースが多く、相談員としても、支給決定担当の職員としても難しい状況。
- ・学校でも気になる子どもが増えている。教育の連携の重要性  
⇒市町でのトライアングルプロジェクトの推進を
- ・相談員が満足に配置されていない状況が続いている。ニーズが増えているが、相談員の兼務や人材不足も多く、現状は、なんとか持ちこらえているという印象。  
⇒市町、圏域として支援できる体制を考えていければ

#### 【佐用町より質問】

- ・療育は診断書等による審査なしでサービスが受けられる状況。
- ・いずれは国レベルで検討を期待しているが、佐用町で療育の需要が急増している状況の中、なにか方法がないかアドバイスいただければ。

#### ○濱本コーディネーター

- ・阪神地区の市では、医師意見書を要件としているところもある。
- ・医療機関にかかるにも予約待ちの状況。支援が必要な人に届いていない状況。
- ・サービス終了の見極めが大事。どの段階で、誰が判断するのか等、難しい課題。
- ・今後、国で放デイの見直しあり。国の制度も少しずつ変更している印象。

#### 【佐用町より意見】

- ・たつの市より「医療的ケア児コーディネーターの配置が市だけでは厳しく圏域での対応を」との意見があったが、佐用町としても同感。今後圏域で協議していきたい。
- ・今年度より、ひきこもりに関する家族相談会を実施しているが、参加者は3組のみであった。
- ・実態調査では、回収率3割で23人のひきこもりの方が挙がった。

- ・まだまだ潜在している可能性があり、今後、ひきこもり支援として居場所の整備を検討しているが、財政課の反対もあり厳しい。

#### ○濱本コーディネーター

- ・まずは家族が変わることが大事。ひきこもり支援は家族の支援が重要である。
- ・相談支援部会の中でも、ひきこもりの事案が増えているとの意見あり。
- ・早期対策が第一であるが、支援策について皆さんで考えていければ。

#### ○関専門員

- ・ひきこもりの支援者向けの研修会を実施している（今年度9/21）
- ・事例を用いたグループワークを予定。

#### 【宍粟市より質問】

- ・本日の会議でも圏域で話し合いを進めるべき課題がいくつか挙がったが、県の計画では、圏域での取組についての記載があるのか。

#### ○事務局

- ・現状、障害福祉課で作成中であり、詳細について未定。
- ・圏域単位での課題解決についての方策は現状ない。
- ・当圏域は市町部会により全市町で話し合える場がある。今後も活用し、取り組むべき課題について議論を深めていければ。

### (3) その他

#### ①児童発達支援センター「たんぽぽ」について

##### 【濱本 Co より説明】

- ・資料3のとおり
- ・こども家庭庁の発足により、児童相談支援センターのあり方が検討されている。
- ・体制が見直され、児童相談支援センターは基幹相談支援センターのような立ち位置（中核的役割）になる
- ・当圏域では、児童相談支援センター「たんぽぽ」を圏域設置としているが、たんぽぽより運営や負担面について相談あり。
  - ⇒セラピスト不足（特にST）、人材確保が難しい
  - ⇒市町のバックアップまで手が回らない
  - ⇒当圏域1カ所のみで担っていく限界、中核的役割が厳しくなっている現状
- ・市町でも現状を認識し、圏域としての体制について今後考えていければ
- ・県医療的ケア児支援センターについて情報共有（資料4のとおり）

#### ②療育に関する情報交換会の運営体制について

##### 【事務局より説明】

- ・管内で児発、放デイ等の障害児支援事業所が急増している。

- ・当協議会の療育に関する情報交換会は定例開催しているが、参加者が多く、限られた時間の中で必要な情報を得にくくなっている。  
⇒市町の協議会の部会等で、小規模の話し合いの場を検討していただきたい。
- ・10月に市町部会、障害児計画相談連絡会、療育に関する情報交換会の合同部会を開催。  
①相生、赤穂、②たつの、太子、③宍粟、上郡、佐用 の3回で実施予定。  
⇒会場の貸し出し等、ご協力を

### 3. 閉会挨拶